

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3271600607
法人名	有限会社 三幸
事業所名	グループホーム さくらんぼ
訪問調査日	平成 21 年 3 月 5 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 26 日
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にして下さい。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600607		
法人名	有限会社 三幸		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	簸川郡斐川町大字今在家403-1 (電話) (0853) 73-7410		
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	出雲市荻野町274-2		
訪問調査日	H 20年 3月 5日	評価確定日	H 20年 3月 26日

【情報提供票より】 (H 21年 2月 8日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算	3.37人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	340 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月8日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	76歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	斐川生協病院 ・ 出雲総合医療センター ・ 福間歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

目の前には田園風景が広がり、季節を迎えると一面にチューリップが咲き誇る公園を一望出来る自然に囲まれた好環境である。又、隣にはゲートボール場があり、地域の方々の集いの場ともなっている。敷地内には300坪の畑、ハウスがあり自分達で野菜を収穫している。ホームでは出来る限り利用者の役割や持てる力を発揮する機会を作り、その人なりの役割を持って、無理のない自然な共同生活が営まれている。理念でもある『人の和』が合言葉であり、ここでの暮らしの原点となっている。かねてからご近所の方との交流が課題であったが、地域向けの広報誌を発刊し、地域へ配ったり、保育園児との交流、近所の高齢者をお茶会に誘うなど地域への根付きが感じられる。一方、年々、利用者の認知や生活機能低下がみられ、今後想定される重度化、終末期への方針を明確にしておきたいところである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は運営推進会議で報告すると共に、事業所内に説明書きと共に掲示されていた。理念や方針の見直し、全利用者家族への報告書、栄養師からのアドバイスなど前回の改善点については職員会議で話し合い、改善に努めていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員が調査票を書き込み、ユニットリーダーを中心に、皆の意見を聞きながら話し合っ自己評価を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に行っている。地域の民生委員や駐在所の方、施設長のほか、両ユニットから1名ずつ交替で一般職員も参加している。都度、広報を通じてご家族の参加を呼びかけてはいるが、自主的参加は少ない。利用者の方には議題によって無理の無い範囲で部分参加をお願いしている。運営推進会議でのご家族からの意見や要望は、すぐに職員会議で話し合っ対応している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	以前は面会の少ないご家族にのみ文書で報告していたが、今は全利用者家族に対し、毎月の金銭管理状態に合わせ個別の報告文書を渡している。又、年4回、職員が交代で“さくらんぼ便り”を家族に発刊しており、写真満載で利用者の生活状況がよくわかる。苦情ケースは、きちんと家族が納得されるまで話し合い、その経過や結果を運営推進会議でも報告されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域商店での買い物や散歩は、ご近所の方と触れ合う機会となっている。「ふれあい祭り」に作品を出品したり、ボランティアや毎年地域の保育園児が来所されるようになり、地域とのつながりが感じられる。又、年2回、地域向けの広報誌を発刊することとした。第一号広報誌は利用者の作られたアクリルだわしを添えて職員が一軒づつ配って歩き、後日、声をかけて下さる方や野菜を届けて下さった方もあった。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの「安・和・尊・楽・豊」の5つの合言葉のうち「人の和」「安心」「尊重」に絞って理念に掲げた。中でも『人の和』を最も大切にしており、事業所での暮らしの原点となっている。又、運営方針も見直し、地域との関係性強化を謳っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に見やすく掲示されており、パンフレットの中でも“5つの合言葉”として明示されている。職員会議でも機会がある度に話題にしており、職員は日々意識したケアを行っているが「理念」としての認識は欠けているようだ	○	職員に理念を、より身近なものとして浸透していくように繰り返し話し合い、又、広報を活用し、利用者家族や地域の方にも事業所の理念、役割を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域商店での買い物や散歩は、ご近所の方と触れ合う機会となっている。「ふれあい祭り」に作品を出品したり、ボランティアや毎年地域の保育園児が来所されるようになり、地域とのつながりが感じられる。又、年二回、地域向けの広報誌を発刊することとした。第一号広報誌は利用者の作られたアクリルだわしを添えて職員が一軒づつ配って歩き、後日、声をかけて下さる方や野菜を届けて下さった方もあった	○	地域の理解、協力が得られるよう啓発に努めている。次回の広報は、利用者と一緒に配布することを検討している。近所の高齢者を誘ってお茶会や手芸で交流したところ、好評だったが単発で終わっているのが残念だ。保育園や地域高齢者との交流も定期化するように働きかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員が調査票を書き込み、ユニットリーダーを中心に、皆の意見を聞きながら話し合って自己評価を行った。前回の評価結果は運営推進会議で報告すると共に、事業所内に説明書きと共に掲示されていた。理念や方針の見直し、全利用者家族への報告書、栄養師からのアドバイスなど前回の改善点については職員会議で話し合い改善に努めていた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行っている。地域の民生委員や駐在所の方、施設長のほか、両ユニットから1名づつ交替で一般職員も参加している。都度、広報を通じてご家族の参加を呼びかけてはいるが、自主的参加は少ない。利用者の方には議題によって無理の無い範囲で部分参加をお願いしている。		地元の老人会会長にも参加をお願いされており、地域行事の情報や新たな交流の広がり期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の事業所連絡会に参加している。今年度は民間会社主催による町内で行われた2級ヘルパー研修の実習生の受け入れもした。これまでも市を介したり、グループホームの啓発には協力している。又、図書館ボランティアによる「語り」や年3回の「回想法」、図書館祭りへの参加など公共機関の利用も積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	以前は面会の少ないご家族にのみ文書で報告していたが、今は全利用者家族に対し、毎月の金銭管理状態に合わせ個別の報告文書を渡している。又、年4回、職員が交代で“さくらんぼ便り”を家族に発行している。写真満載で利用者の生活状況がよくわかる。	○	毎月の利用者報告は、各担当職員が記入して渡している。家族の知りたい情報を把握した上で、専門用語を用いず解りやすい言葉で書くようにお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されているが利用はない。運営推進会議でのご家族からの意見や要望は、すぐに職員会議で話し合っって対応している。苦情ケースは、きちんと家族が納得されるまで話し合い、その経過や結果を運営推進会議でも報告されている。		家族会は、利用者家族へのアンケート結果で設立されていない。担当職員が報告書や面会時の状況報告などを通して、安心して意見を言ってもらえるような、ご家族との信頼関係を構築して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の名前や配置は廊下に掲示し明確にしている。アセスメントやモニタリングの時に中心となる利用者担当職員を決めているが、日々のケアはユニット職員全体で行っている。看護職員が全利用者を把握出来るようにユニットを異動したが、それ以外はない。職員が退職する際は利用者に事前に伝え一緒に送別会をするなど理解して頂いており、これまで混乱はなかった。	○	広報で新入居者の紹介はされていますが、職員の異動や離職についても利用者家族に報告されてはいかがでしょうか。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については所内研修会で報告や回覧する事で共有を図っている。所内研修としては全体会議やユニット会議の場で支援方法を検討するなど日々、管理者からの話題として実践に即した教育（OJT形式）を実施している。記録時間を変更し残業を無くす取り組みや、マニュアル整備、「頑張ったで賞」をつくり、職員家族にも喜んで頂ける商品を工夫しやる気を高めるなど組織としての体制、仕組み作りも徐々に蓄積されてきている。	○	個別指導計画の作成、実施を期待する。又、家族も参加される「敬老会」にあわせ行う予定だった成年後見制度の研修も是非実行して頂きたい。又、責任者が不在時の対応などのリスクも検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者仲間で定期的に集まり、情報交換や労務士を招いて勉強会を企画するなど積極的に交流を図っている。お互いの事業所職員の交換研修や見学も行うようになり、サービス向上に共に取り組んでいる。他事業所の誘いで、利用者と一緒に三味線観賞にも出かけ、利用者同士の交流にもなった。		今後、一般職員の交流の場も企画をされてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人が見学に来られたケースがあった。お試し利用や家族の宿泊も出来ることを説明しているがこれまで利用される方はなかった。入所希望者には、事前に管理者とユニット職員が来訪し家族や本人と面談して、利用者の状況を踏まえた上で家族から十分に情報を得て不安などへ対処し、個別の関わりを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りから片付けや掃除、ゴミ出し、新聞届け、畑作業まで、利用者の状況に応じて常に職員と一緒に生活している事が、利用者の安心となり、日課とされている方も多し。又、職員は常に感謝の言葉を伝えており、職員から必要とされ、頼られることで自信を取り戻し、喜びを見出されており両者の良好な関係がみとれる。		利用者同士の相性を考え、席順など配慮している。利用者同士の会話が少なかつたり、うまく伝えられないときには、職員が間に入ってコミュニケーションを図っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニットカンファレンスで日々の状況を共有している。利用者同士の会話にも耳を傾け、利用者に合わせた問いかけで何処へ行きたい、何が食べたいなど本人の意思をゆっくりと確認している。個々の利用者の生活パターンを職員が十分認識しており、様々な場面で利用者に委ね、利用者の意思を表出できる機会を積極的に作っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアや気付きは個別に記録してあり、個人毎にファイリングし職員間で共有している。介護計画は全ての利用者に対してユニット毎のカンファレンスで作成され、利用者自身に「希望、不満など」を確認している。又、家族を呼んで意見を聞いた上で要望があれば介護計画に取り入れ確認印を受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎に計画の見直しをしている。定期的モニタリングに限らず、利用者の行動や気持ちの変化を把握し、ユニットカンファレンス等で検討し、状態に応じた支援方法に変えている。変更したことや気をつけることなどは、連絡ノートに記載して職員間で共有しながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院の際は病院に面会に行き、連携を図りながら、利用者や家族を支援している。遠方の家族が泊まられたり、退所後に訪問したケースもあった。家族の状況により、医療機関の送迎も行っている。隣ユニットとは交流の催しや料理の交換などを行い、馴染みのご近所のような良い関係が出来ている。ユニット対抗の運動会や風船バレー大会、併設のデイサービスの敬老会での交流等の催しは、入所者の楽しみとなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、希望を聞いて主治医を決定しているが、現在、全利用者が苑の協力医をかかりつけ医としている。往診での健康相談や職員への助言はもとより、利用者の状態に変化があった場合でも医療機関との連携の下に必要な対応をする体制が整っている。その他、歯科医や認知症専門医とも協力的な関係にある。日々の記録は日勤、夜勤の色分けの他に医療に関しても色分けして記録されており、わかりやすい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際に、寝たきり状態が継続する場合は退所となる説明をしている。重度化に向けて家族の意向など話し合い、かかりつけ医と相談しながら方針を共有してきた。かかりつけ医とは24時間体制の契約により適切な医療を受けられる。いざという場合には入院の受け入れも可能な体制にある。	○	看取りの指針や、ターミナルアンケートも準備しているが渡すタイミングを逸している。「死」という重いテーマではあるが、避けては通れず、お元気うちに家族や本人の意向確認や話し合いをされた方が良いでしょう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議やユニット会議など機会あるごとに、利用者のプライバシーや尊厳について話し合っている。マニュアルも作成された。排泄介助や誘導の声がけなど日常の介助面でも羞恥心やプライバシーに配慮した対応がされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕に各人の状態の申し送りをして、勤務前には必ず記録を確認し、その日の状態に応じた関わりをしている。認知症や身体の障害の程度を問わず、その人なりの役割を持ち共同生活に参加している。排尿、排便チェックをしながら、トイレ誘導や尿器での排泄、排便コントロールを実施することで気持ち良い排泄支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後、利用者や職員の感想を聞いて記録し、利用者の食べたい物や嗜好が聞けたときは一緒に記録し、献立に活かしている。利用者と一緒に買い物に出たり、自分達で収穫した野菜を使う事で食への関心を深めている。料理から盛り付け、片付けまで職員と利用者が分担して共同作業を行い、同じ料理を職員も一緒にテーブルで頂く事で会話が弾み、ゆったりと和やかな時間を過ごしている。誕生会でお菓子作りや、ウッドテラスで焼肉会などイベント食も楽しまれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に沿った入浴支援が行われている。寒い時期、入浴を嫌がられないように脱衣所にヒーターや浴室には暖房で温度調整をしている。褥創の為、毎日入浴して頂いたり、下肢の浮腫や白癬、不眠などの方には足浴を続け改善してきている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望を聞きながら近隣へ遊びに出かけては、美味しい物を食べて帰るのが恒例である。利用者各人の得意分野や趣味を把握し、出来る限りホーム内で利用者の役割や持てる力を発揮する機会を作り、無理強いくなく共同生活への参加を支援している。又、ホーム内に美容室が設けられており、資格を持った職員に整髪してもらおう方や行きつけの美容院に家族と出かけられる方、自宅で家族に髪染めをしてもらえる方など利用者の希望に沿った支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買い物や、夕方の散歩など日常的に外出している。お墓参りや以前の勤務先に案内するなど個別の援助がされている。利用者の希望を聞きながら喫茶店やうどん屋など外食に出かける事も度々ある。外食や本人の買い物では自分の財布から支払うようにしている方もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室の窓など日中施錠していない。利用者の思いや外出傾向、その日の気分や状態の把握に努め、利用者が外出される時は、さりげなく見守り同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練（昼夜設定）や救急法、警報機の使い方等の指導を受けている。今年度、利用者の方で急な心肺停止があったが、講習を活かし救急隊の到着まで職員が適切な救急蘇生を行い、一命をとりとめた。	○	水害時の避難場所、火災時の近隣の避難場所の設置も含め、地域の協力が得られるように働きかける事が必要でしょう。いざという時に職員が混乱しないように、避難場所・避難方法等は手順書を整え周知徹底しておく事が重要です。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者向きの食事を工夫され、利用者の体重変化を見ながら主治医の助言の下、管理者が献立を作成している。年2回は知り合いの栄養士に献立表を見て助言を頂き、献立の見直しをしている。粥食、刻み食、ミキサー食など利用者の状況に合わせて提供している。水分は定時のお茶以外に、いつでも飲めるようにテーブルに準備されており欲しい時に飲めている。必要に応じて水分、食事量チェックを行っている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アイランドキッチンでありフロアはオープンな空間となっている。続きにある8畳の和室はオープンにも閉室にもなり使い分けている。普通のコタツと椅子用コタツがあり、利用者に応じた生活環境を配慮し改善に努めている。お雛飾りや利用者と一緒に作った飾りは季節を感じさせる。又、毎日、利用者も自然に加わって掃除がされており、清潔感がある。気候が良いと、ユニット間のテラスは集いの場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や持ち物はなるべくこれまでの生活に近いものを持ち込むよう利用開始に説明されている。ベッドや畳、家具の配置や雰囲気や全く違い入居者の個性が出ており、落ち着く事が出来る。コタツや湯たんぽ、電気毛布等、暖房器具も個別に使用されている。昼食後は部屋でくつろぐ方も多い。		